



公益社団法人

# とやま被害者支援センターだより

2020.2 発行 第32号



## 地域に広がれ支援の輪 犯罪被害者週間「富山大会」開く

犯罪被害者週間「富山大会」が令和元年11月21日、富山市のボルファートとやま多目的ホールで県民や関係者など約250人が出席して開かれました。

大会では、初めに主催者として山田知裕警察庁長官官房審議官（犯罪被害者等施策担当）、石井隆一富山県知事、大原光博富山県警察本部長が、また、閉会時には四十物直之とやま被害者支援センター理事長が、それぞれあいさつしました。

武るり子氏（少年犯罪被害当事者の会代表）が「少年犯罪で息子を奪われた母の想い」と題して基調講演しました。武氏は犯罪被害者等を生み出さないために、凶悪な犯罪を引き起こす可能性のある少年犯罪の「芽」を摘み取るとともに、犯罪が起きないような地域づくり、国づくりが大事だと強調されました。さらに、武氏を交えた5氏が「私たちにできる犯罪被害者支援」をテーマにパネルディスカッションを行い、被害者等支援の実態や今後の問題点などについて意見や要望を述べ合いました。

出席者は、講演やパネルディスカッションを通じて犯罪被害者支援の取り組みの輪が地域で一層広がるよう、決意を新たにしました。

## 主催者挨拶



WOHLFAHRT TOYAMA

山田 知裕 警察庁長官官房審議官  
(犯罪被害者等施策担当)



WOHLFAHRT TOYAMA

石井 隆一 富山県知事



大原 光博 富山県警察本部長

## 基調講演

### 「少年犯罪で息子を奪われた母の想い」

武 るり子 氏(少年犯罪被害当事者の会代表)



## パネルディスカッション

### 「私たちにできる犯罪被害者支援」

#### コーディネーター

#### パネリスト



西尾 憲子 氏  
高岡法科大学 法学部  
法学科 准教授



大岡 由佳 氏  
武庫川女子大学 文学部  
心理・社会福祉学科 准教授



木村 なぎ 氏  
性暴力被害ワンストップ支援  
センターとやま センター長



武 るり子 氏  
少年犯罪被害当事者の会  
センターとやま センター長  
代表



在田 吉宏 氏  
公益社団法人富山青年会議所  
2019年度理事長



## 閉会挨拶



四十物直之 公益社団法人とやま被害者支援センター理事長

## 展示コーナー

警察庁・関係省庁・民間団体等のポスター等展示

# 基調講演 (要旨)

演題 「少年犯罪で息子を奪われた母の想い」

講師 武 るり子 氏(少年犯罪被害当事者の会代表)



## 被害生む『芽』を摘み取れ

### 【事件の概要】

23年前の平成8年11月3日、武るり子さんの長男孝和さん(当時16歳)が高校の文化祭で他校生からいわれのない理由で因縁をつけられ、下校途中に殴るけるの暴行を受けて意識不明に。緊急手術を受けたが2日後に息を引き取った。暴行を働いた高校生は家裁の保護処分で10ヶ月の少年院送致となつた。

### 【講演要旨本文】

#### 学生さんに励まして

息子は今から23年前に少年犯罪で命を奪われました。私はその時、同じ被害に遭った遺族を探しました。同じように子どもの命を奪われつい想いを持った人を1年掛かりで4家族探しました。一生懸命みんなで時間が足りないくらい話をしました。共通することがたくさんあると初めて気付いたのです。それが少年法の壁でした。その時に「少年犯罪被害当事者の会」ができたのです。

自然と我が家が事務局になり、私が代表になりました。事務局といつても会の電話と家の電話を分けているだけの家の中でやっている事務局です。今も変わりません。会の電話番号をオープンにしてどこにでも載せてもらいました。今は珍しくはないホームページを立ち上げました。そのホームページを見たり、会に関する何かの記事を見た若い学生さんが連絡をくれるようになったのです。

最初は10人近くの学生さんたちでした。一生懸命話を聞いてくれました。私たちと一緒に泣いてくれる学生さんもいました。「武さんたちがしたいと思うことのうち、自分たちができるることは手伝います」と言ってくれました。その一言に後押しされて作ったのが1年に1回集まる「WiLL」という会で、今年は21回目を迎えることができました。

#### 支援の法律・制度整う

今はいろいろな所に出掛けて行って話をしていま

す。国会の法務委員会で参考人として話もしました。そういう公の場所に行くと「武さんて活動家ですか」と聞かれます。私は活動家でも活動をしていたわけではありません。専業主婦なんです。なぜ23年間続けられてきたかというと、事件前の社会は、私たちのような犯罪被害者ことは全く考えられてはいませんでした。法律、制度が整っていませんでした。あるべきことがなさすぎました。しかし、社会が変わりました。犯罪被害者週間が設けられたことや少年法が改正されたことは本当にすごいと思いました。23年前に社会が犯罪被害者に理解を示したり、法律・制度が私たち家族を守ったりしてくれていたら、あれほど苦しい思いをしなくてすんだのではと思います。

#### 地域の人に助けられる

少年犯罪は加害者も少年です。ですから一般的に、少年犯罪は「けんか」と見なされるケースが多かったです。私の息子を死に至らせた高校生は以前にも暴力事件を起こしていたことが分かりました。少年が事件を起こす『芽』を早いうちに摘んでほしいのです。私たちのような想いを絶対にしてはいけません。だからまず、犯罪が起きないような地域づくり、国づくりが大事です。

被害に遭った当時、私たち家族はひどい状態になりました。ごはんも作れなくなり毎日地獄だと思っていました。残された2人の子供たちを思いやりがなかったと思います。そんな家族を助けてくれたのが、地域の人たちでした。「うちの家大変やねん」。そう告白したことは、今考えると良かったと思します。「ごはん食べたん?」と言われ、「食べてない」と言ったとすると、「あかんやん」と言って家に上がって作り出すのです。

私たち家族は元に戻ることはありません。でも違った形の家族にはなってきていると思います。警察や支援センターの支援がこれほど充実するとは23年前には想像もつきませんでした。これからもどんなにつらいことがあっても、一生懸命頑張って生き続けなければいけないと思っています。

## 令和元年度「大切な命を守る」中学・高校生作文コンクール入賞者

当コンクールは、「命の大切さを学ぶ教室」を受講、若しくは、命の大切さに関する多様な機会に、命の大切さを考え又は体験等をした県下の中学生又は高校生を対象に、命の大切さに関する自分の考え方や意見について、身近に経験したり見聞きした事件・事故に関すること、いじめに関すること、家族や人ととの関係の大切さに関すること、被害者支援活動・防犯活動に関するなど盛り込みつつ表現した作文を募集しました。多数の応募ありがとうございました。令和元年度の入賞者は次の通りです。

○中学生の部  
(敬称略)

入賞	学校名・学年	氏名	作品名
最優秀	射水市立 小杉南中学校 3年	肥田 慶治朗	大切な命を守る
最優秀	富山市立 八尾中学校 1年	福山 天輝	命の重さを知る
優秀	舟橋村立 舟橋中学校 2年	柴垣 紗愛	もし自分だったら
優秀	滑川市立 滑川中学校 2年	東川 穂乃香	命の大切さ
佳作	富山市立 興南中学校 2年	渡部 亜美	この講演を聞いて
佳作	富山市立 興南中学校 2年	加藤 遥	命の大切さ
佳作	富山市立 大泉中学校 2年	原 歩希	幸せに生きる
佳作	富山市立 芝園中学校 2年	南部 圭壱	「当たり前」
佳作	舟橋村立 舟橋中学校 2年	梅瀬 織	かけがえのない命

○高校生の部  
(敬称略)

入賞	学校名・学年	氏名	作品名
最優秀	県立 吳羽高校 1年	桑山 瑠雪	「たった一つの命」
優秀	県立 高岡工芸高校 3年	澤田 彩夏	死にたかった私、これからの私
優秀	県立 吳羽高校 1年	松井 綾我	「命」
佳作	県立 高岡工芸高校 3年	石川 凌太朗	私の誓い
佳作	県立 高岡工芸高校 1年	高田 愛	命に関わる思いやり
佳作	県立 小杉高校 1年	松井 優人	命の尊さ

### 大切な命を守る

ニュースでよく耳にしたり、新聞で目にしたりする言葉。体が締め付けられる様な悲しい二文字「虐待」。悲惨な虐待事件が相次いでいる。児童相談所の虐待対応件数は増加し続け、2000年度に比べると現在は、その約九倍の数となっているのが悲しい現実だ。その中でも若い親による虐待事件が多い事に僕はずっと気になっていた。

この夏、僕のいとこは赤ちゃんを産んだ。母となった彼女は、十代とまだ若い。彼女は、妊娠したと分かった時、すぐに僕の家へ来て嬉しそうにその事を報告してくれた。

夏休みが終わる頃には、赤ちゃんに会えるだろうと僕は楽しみに思っていた。でも、その時は急に来た。母体から胎児へ栄養が十分に届かず成長が遅れ、胎児の命が危険となってしまい、急に帝王切開する事になったのだ。赤ちゃんに何か障害があるかもしれない、医師から言われたという。母である彼女は今、どんなに不安だろうと僕は心配に思った。

みんなが期待と不安の中、新しい命は誕生した。一ヶ月早く生まれた男の子は、元気に産声を上げてくれた。標準より随分小さな赤ちゃんは、すぐに保育器に入り呼吸器が付けられた。出産後の検査で母体と胎児を繋ぐ、さい帯の位置が正常ではなかった事が原因だったと判明した。もし、異常に早く気付かず、予定日通り出産してい

### 射水市立小杉南中学校 3年 肥田慶治朗

たら、赤ちゃんの命は無かったであろうと聞かされた時、喜びと怖さの感情を僕は感じた。

新しい命を生み出す瞬間、僕のいとこは覚悟を決めて母になった。新しい命が生まれる瞬間、僕の家族は仏壇で必死に手を合わせていた。そして、誰よりもお腹の中にいた赤ちゃんが一生懸命生きようと、頑張ってくれた。みんなが守ろうとした命を赤ちゃんは自ら繋げてくれた。小さな命はとても大きく大きかったのだ。

命は平等だ。必死に懸命に生きようとする。

それを奪う権利は誰にもない。虐待によって失われる命があるなんてあってはならない。ただ、僕は思う。虐待をしてしまった親も赤ちゃんを産んだ時、初めて我が子の顔を見た時、喜びと幸せに溢れ、愛情を注いだ瞬間が必ずあったのだろう。

子育ては、きっと僕が思っているよりもずっと大変な事なのだろう。まだ、経験や知識が少なく、周りに助けてくれる人がいない若い親だとしたら、みんなが当たり前だと思う事がそうではないのかもしれない。その事に周りの人が気付いたり、理解する気持ちを持つだけで、人は人を救えるのかもしれないと思付いた。

僕は、まだ保育器にいる小さな赤ちゃんに大きな事を教えてもらった。この大切な命を見守って僕ができる事は協力したい。そして自分が成長していくなら、と思う。

## 命の重さを知る

最近、無差別放火事件や、親が我が子を殺し逮捕されるという事件を耳にします。例えば、受験を巡り、父親が長男を刺殺したり、富山県でも、生後十一ヶ月の女の子が車の中で、母親に放置され死亡したという事件などがありました。

僕は、一歳四ヶ月の頃、突然高熱が出て、掛かり付けの病院に行きました。診断は、「風邪」とのこと、薬を処方されました。しかし、熱は、一向に下がることはなく、二週間も続きました。母は、再び僕を連れて行き、熱が下がらない事や機嫌が悪く、泣き続ける事を説明し、診断を仰ぎました。血液検査の結果、詳しく検査が必要だという事で、大きな病院を紹介され、再び検査。そこでは対応が難しいという事で、また違う病院を紹介され、転院。結果、「血球貪食性リンパ組織球症」という血液の病気であることが分かりました。「このまま放っておくと、三日間程で亡くなる可能性がある」と医者から言わされた時、母はショックのあまり、頭の中が真っ白になったと聞いています。自分のせいで病気になったのではないか。代わってあげ

## 富山市立八尾中学校 1年 福山天輝

られるものなら代わってあげたい。そして、抗癌剤の治療や無菌室での治療が始まり、毎日毎日片時も離れずに付き添ってくれたそうです。

今の僕を見て、母は「大きくなったね」「強くなったね」「どこから見ても健康だね」と嬉しそうにしています。「本当に病気だったが?」と僕が聞くと、「本当だよ。でも、そんな風に見えなくなったね」そんな話をする母は、とてもいとおしい目で僕を見ます。実際、僕は病気だったことも想像できないくらい元気で、どちらかというと活発な人へと成長しています。

人の命というものは、年齢や性別等関係なく、全て平等であること。そして、全て尊く大切なものだと思います。僕は、自分が今現在、元気に生きていることで、僕のまわりにいる人達が笑顔でいられることが、それを物語っていると思います。僕の命、両親の命、友達の命、この世で生きている全ての命が、果てることなく、互いに愛のある環境の中で大切にされていくべきだと今、僕は実感しています。

## 「たった一つの命」

私は、「命の大切さを学ぶ教室」の講演を聴いて、私の祖父のことを頭に思い浮かべました。事件や事故はいつ、誰に起きるか分からぬということは、知っていました。しかし、まさか自分の身近な人に起こるなんて思ってもいませんでした。

テレビでよく聞く言葉があります。それは、「いってきます」これが、最後に交わした言葉だった、です。そのようなニュースを耳にする度に、気の毒だなとは思いますが、時間が経てば忘れてしまうといった程度でした。

しかし、当たり前に会えると思っていた人が冷たくなり、言葉も交わせない状態で再会するということが私にも起きました。今になっても思い出すだけで涙が止まりません。祖父は、本当に優しい人でした。笑った顔しか見たことがありません。一緒に住んでいませんでしたが、会うと必ず帰る時に、「また来いや。風邪ひかれんな。気付けて帰られ」と、口癖のように言っていました。そんな祖父とこんなに早く別れることになるとは思ってもいませんでした。私が連絡を受けて病院に着くと、病院の先生に、「もう目を開けることはありません」と言われました。祖父は、突然不慮の事故で亡くなってしまい、お別れの言葉も、感謝の言葉も伝えることが出来ませんでした。家に行けば、何の疑いもなく会えると思っていた人が、ある日突然目の前から消えてしまうのです。手をつなぐことも、話すこと、何一つ叶わなくなってしまいました。命は尊い。一人に一つしか与えられないな

## 富山県立呉羽高校 1年 桑山瑚雪

いということを痛感しました。愛された記憶が大き過ぎて、喪失感は図り知れないものでした。“会えない”そんなことは分かっています。それでも会いたい、もう一度あの優しい笑顔で、声で私の名前を呼んではほしい。

あのときにああしておけば良かった、こうすれば良かった。どれだけ悔やんでも、あの日々は二度と戻ることはできません。あの日かけがえのない命を亡くし、私は胸を痛めるニュースにも耳を傾け、残された日々の悲しみに寄り添うことが出来るようになりました。祖父は、その命を以って、私に命の大切さを教えてくれたのだと思います。

そして、生きているということは奇跡なのだと思います。私が、今生きているということも奇跡です。成長していく上でたくさんの人と出会いました。誰一人欠けてはいけない、かけがえのない人たちです。誰にでも、その人を自分以上に大切に想う人が必ずいます。もちろん私だって欠けてはいけない人の一人です。私の命もたった一つしかありません。

「命の大切さを学ぶ教室」を通して、私に起きた悲しい出来事を改めて思い出し、たくさん的人に伝えたいです。「命は言葉では表せない程尊いということ、一度亡くしてしまうと、二度と帰って来ることはないこと」。

私は、この与えられた命を大切に、強く生きていける人間になります。そして、出会えた人たちの命を大切に想える人間になれるように、これから一生懸命に生きていきます。

# 「犯罪被害者支援自動販売機」を設置頂き ありがとうございます



高岡法科大学 様 (学生ボランティアの皆さん)

この自動販売機の売上金の一部は  
犯罪被害にあわれた方・ご家族・ご遺族の

**支援のために**  
役立てられます。

[とやま被害者支援センター]



(株)アピアスポーツクラブ 様



(学)富山県理容美容学校 様

## 【支援自販機設置場所】(令和2年2月末日現在・52台)

(株)アピアスポーツクラブ、(学)富山県理容美容専門学校、(学)高岡法科大学、(大)富山大学、(株)富山環境整備、(株)北陸銀行(越前町支店・丸の内支店)、三菱ケミカル株、(学)富山県自動車学園(黒部自動車学校・滑川自動車学校・富山自動車学校・高岡自動車学校・砺波自動車学校)、富山県庁、富山県警察本部、運転教育センター、交通機動隊、県内各警察署

(順不同・敬称略)

## 【飲料水メーカー】(令和2年2月末日現在・5社)

北陸コカ・コーラボトリング株、(株)ジャパンビバレッジホールディングス、コーシン・サントリービバレッジ株、(株)伊藤園、(株)コーシン

(順不同・敬称略)

令和元年度(4月～1月末)において、個人2名様、富山県警察からは鑑友会様、機動隊様よりご寄付をいただきました。

**ありがとうございました。**



1/14 佐野英之機動隊長(右側)

## 被害者支援ボランティア活動員募集

私たちと一緒に活動していただけるボランティアを募集しています。

### ボランティアさんの声

#### ○活動11年目 女性

深い悲しみに寄り添い、お話を傾聴することで、「ありがとうございます。心が少し晴れました。又、頑張れそう」と言ってもらえ、わずかでも役に立てたのかなと思い、被害者支援のボランティアのやりがいを感じています。



#### ○活動3年目 男性

今年から「直接支援員」となり、よりやりがいを感じています。県外の研修にも参加させてもらい、他県の方々との交流もでき、よりグレードアップできたと思います。今後、もっと経験を積んで支援できればと思います。

#### ○活動1年目 女性

犯罪被害情報に関し、一般的に加害者の処遇等に偏りがちで、被害者の心情はじめ経済的な損害について知る機会は殆どありませんでしたが、委嘱直後の研修で実情を知り、支援の必要性を痛感しました。只今は、相談電話窓口での支援補助員として携わっています。苦しい胸の内を伺っている内、情報が氾濫していても、直接人の声で伝えないと、人は不安なのだと改めて知らされました。これからは、被害にあった方が、より苦しむことがないよう、人権を尊重した支援活動を心がけていきたいと思っています。

令和2年度の募集期間や応募方法などは現在計画中ですが、当センター(076-413-7820)にお問い合わせいただくか、ホームページ等でご確認ください。

## 犯罪被害者支援活動 広報動画 ロスタイルの絆

全国被害者支援ネットワークでは、犯罪の被害に遭われた方、そのご家族、ご遺族への支援の輪を広げるための広報動画「春が、来た」等をSNS・Youtubeにて配信しております。

今回の動画等は、「若年層の方に犯罪被害者支援について知ってもらいたい」という同ネットワークの思いを元に作成されました。

◆公益社団法人 全国被害者支援ネットワーク 犯罪被害者支援活動 広報動画  
[https://www.nnvs.org/video\\_lsstime/](https://www.nnvs.org/video_lsstime/)

# 活動報告 (11月～2月)

## 研修会等

### 内部研修

#### ◆事例検討会

11/1, 12/5, 2/6 講師：大久保恵美子 氏（全国被害者支援ネットワーク顧問）

#### ◆継続研修

11/21 「犯罪被害者週間 富山大会」

12/17 「少年犯罪の流れ」

講師：大坪 健 氏  
(大坪法律事務所)



大坪健弁護士



研修の様子

### 外部研修

11/25 「法テラス：地方協議会」(県民会館)

11/11 「警察庁：交通事故被害者支援窓口担当者研修」(金沢市)

1/10 「富山県：犯罪被害者等支援研修会」(県民会館)

2/10 「性暴力被害ワンストップ支援センターとやま：合同研修会」(県民会館)

### 会議等

11/8 「射水被害者支援ネットワーク総会」(射水署)

11/12 「富山県再犯防止推進計画検討委員会(第2回)」(高志会館)

11/28 「富山市被害者支援ネットワーク総会」(富山南署)

1/23 「魚津市犯罪被害者支援ネットワーク」(魚津署)

2/4 「砺波被害者支援ネットワーク」(砺波署)

2/20 「富山県再犯防止推進計画検討委員会(第3回)」(高志会館)

## 広報啓発活動

### 啓発活動

10/23 「保護司指導力強化研修」(保護観察所)

12/6 「心神喪失者等医療観察制度管区内研修」(保護観察所)

### 広報活動

11/27 高岡法科大学における犯罪被害者等支援キャンペーン



パネル説明をうける学生の皆さん



学生ボランティアと協力して



学生ボランティアの熱心な様子

- 10/ 7 全国地域安全運動富山県民大会会場での広報  
 11/20 暴力追放富山県民大会会場での広報  
 11/1～1/24 犯罪被害者等支援巡回パネル展  
     (滑川市・立山町・黒部市・氷見市・砺波市・南砺市・舟橋村・上市町・高岡市)  
 12月 広報誌広告掲載 (12月号)  
     (広報なんと・広報なめりかわ・広報たかおか・広報ひみ・広報くろべ・広報かみいち・広報おやべ)  
 12/1～12/31 公共交通デジタルサイネージによる広報



電鉄富山駅



富山国際大学内



グランドプラザ



富山大学内

## 命の大切さを学ぶ教室

- 11/ 8 志貴野高校  
 2/ 6 泊高校  
 2/21 雄山高校  
 2/25 富山国際大付属高校



泊 高 校

### 参加された生徒さんの声

泊高校3年 Tさん

今日の講演を聴いて、心が痛くなりました。

まだまだ楽しい日々が待っていたのに、それが一瞬で消え去ってしまったときの想いは、私には想像がつきません。

私は看護師を目指していて、将来は小児科で働きたいと思っています。

傷を負った子を手当てするのはもちろんだけど、心の傷も癒やせる看護師になりたいと思います。

## ホンデリング～本で広がる支援の輪～ にご協力ください。

皆さまの読み終えた『本』のご寄附で、犯罪被害に遭われた方々への支援の輪を広げましょう。読み終えた本やCD・DVD・ゲームなどがあれば、当センターにご連絡下さい。引き取りに伺います。

平成31年1月～令和元年12月末までに、  
1,043冊のご寄付がありました。  
多大なご協力ありがとうございました。



このような本が支援につながります。

ISBNコード(規格品番)のついた本・  
CD・DVD・ゲームをお送りください。



ISBN978-4-1234-5678-9  
ISBN見本

### イオン 黄色いレシートキャンペーン にご協力を

毎月11日にイオン高岡南店でお買い物され、黄色のレシートを店内に設置された投函コーナーにある当センターのボックスに入れていただきますとレシート合計金額の1%相当額の物品がイオンリテール(株)様から当センターに寄贈されます。皆様のご協力をお願いします。



### ◆募金箱設置◆

令和2年2月1日現在、県内68箇所に当センターの募金箱を設置させていただいております。

募金箱を設置していただける施設や企業・団体のご協力ををお願いしています。県民の皆さまが募金にご協力いただくことにより、被害者支援活動に貢献し、被害者等の方々の支援をすることがあります。



公益社団法人 **とやま被害者支援センターだより 第32号**

令和2年2月発行

発行／富山県公安委員会指定犯罪被害者等早期援助団体

公益社団法人とやま被害者支援センター

責任者／専務理事兼事務局長 奥井 博義

事務局／〒930-0858 富山市牛島町5番7号

TEL : 076-413-7820 FAX : 076-471-7825

E-mail／jimukyoku@toyama-shien.com

ホームページ／http://www.toyama-shien.com

